

# これからの駅前広場のあり方に関する一考察\*

## Discussions on Desirable Roles and Plans of Future Station Plazas\*

遠藤玲\*\*・小堀為雄\*\*\*

By Akira ENDO\*\*・Tameo KOBORI\*\*\*

### 1. はじめに

駅前広場は、特に地方においては、都市への来訪者が鉄道空間である駅から都市空間に踏み出す場所であり、都市側から見ると、お客様をお迎えするまちの玄関であり、顔である。その空間はまちのイメージを初めて訪れる者に強烈に印象付けるものであるから、本来、そのまちの個性と魅力を十二分に表現するものでなくてはならない。また、外から帰ってきた市民にとっては、自分のまちに帰ってきたという安堵感をわがまちに対するいささかの誇らしい気持ちとともに感じられる空間であってほしい。

しかしながら、これまでの駅前広場の空間は概して全国一律の計画・デザインであり、緑地の面積を多くする、屋根・壁面などに伝統的な意匠を採用する、そのまちの歴史にちなんだシンボリック施設を設置するといった工夫をする程度であった。

これは、駅前広場の面積確保自体が難しく計画に自由度がないこともあるが、駅前広場の本来果たすべき役割が交通結節機能以外については十分に考えられていないことにも原因があると考えられる。

本年3月20日に金沢駅東広場が完成・供用したが、この広場はこれまでの駅前広場に例を見ないいくつかの特徴を持っている。本論文では、当該広場の概要と完成記念イベント等による活用状況の紹介を行い、駅前広場の果たすべき役割とそれを実現するための課題について考察する。

\*キーワード：市民参加、空間整備・設計、ターミナル計画

\*\* 正員，金沢市役所

(〒920-8577 石川県金沢市広坂1-1-1, TEL:076-220-

2014, E-mail: endoh\_a@city.kanazawa.ishikawa.jp)

\*\*\*フェロー(名誉)会員、工博、金沢大学名誉教授

(〒920-8577 石川県金沢市泉野出町2-4-18、

TEL076-242-7454、FAX076-242-7454)

### 2. 金沢駅東広場の概要と特徴

#### (1) 金沢駅東広場整備の背景

金沢駅の東広場は、兼六園等の歴史的景観が残された伝統文化が息づく旧市街地への玄関口にあたる。整備前の駅東広場は、バス・タクシー、一般車の乗降場や駐車場等が整備されていたが、バス乗車場については車道を横断するため危険であるだけでなく、地下通路やエレベーターがないなど、高齢者や障害者のみならず健常者にとっても使いづらいものとなっていた。また、照明も暗く、駅周辺地区の賑わいの形成が求められていた。一方で、JR 北陸本線の金沢駅を含む犀川から浅野川までの区間が平成3年に連続立体交差事業により高架化され、従前の駅敷地が一部空閑地化すると共に駅周辺のポテンシャルが飛躍的に向上したことから、北陸新幹線の将来の開業を見据えて、金沢の玄関口としての金沢駅前とその周辺の面目を一新するための整備が求められた。

#### (2) 事業の経緯と概要

##### a) 経緯

平成元年に「金沢駅東広場および駅通り線整備懇話会」を設置し、平成4年度に金沢駅東広場整備基本計画の策定、予備設計、基本設計、実施設計を経て平成9年度に金沢駅北土地区画整理事業の一部として着工し平成16年度に完成・全面供用した。その過程では、上述の懇話会に加え「金沢駅東広場専門委員会」、「東広場プロデューサー会議」、「大屋根構造研究会」、「地下空間デザイン専門委員会」等の組織を通じ市民合意の形成を図るとともに技術的課題を解決しながら整備を進めた。

##### b) 概要

地上広場面積約2万㎡、地下広場延べ床面積約1万㎡。大屋根建築面積約3千㎡、大屋根高さ約

30 m。緑地を含む歩行者空間が広場面積の約50%。

バスターミナルは乗車11バース、降車5バース、待機8バース。タクシー乗降場は乗車3バース、降車5バース、タクシープール57台。一般車乗降場4バース、駐車場45台。

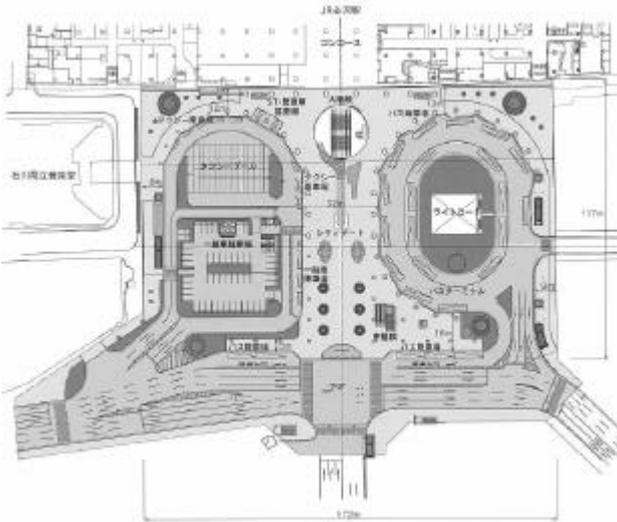


図 - 1 地上広場平面図

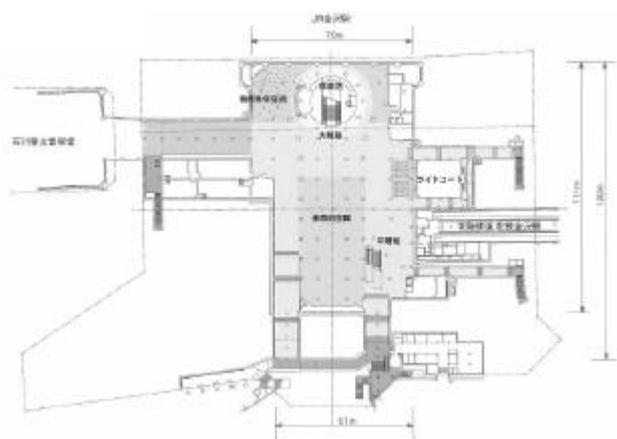


図 - 2 地下広場平面図

### (3) 事業の特徴

都市再生の拠点として金沢の表玄関にふさわしい空間を実現する本事業の特徴としては、a)金沢らしさの創出、b)充実した歩行者空間の確保とバリアフリーの徹底、c)交流と賑わい創出の拠点整備、d)環境に配慮した施設整備の4点があげられる。

#### a) 金沢らしさの創出

多雨多雪地域の金沢において「駅を降りた人に傘を差し出す、もてなしの心」を表現した面積約3千㎡のガラスとアルミ合金フレーム構造の大

屋根(もてなしドーム)を架け、その正面には都市の門として金沢の伝統芸能である加賀宝生の鼓をイメージした木造のシティゲート(鼓門)を設置している。中央の歩行者空間には金沢のまちなかを流れる用水に見立てた流れや、広場の随所に植栽等の修景施設を配置した。

#### b) 歩行者空間の確保とバリアフリーの徹底

広場中央を歩行者に開放した「工(たくみ)型広場」とし、各乗降場へは車道を横断しないでアクセスできるよう計画した。また、もてなしドームや乗降場シェルターにより駅利用者を雨や雪から守り、タクシーや一般車の乗降場には段差をもうけないこととした。一般車用の駐車場と乗降場には障害者用のスペースが設置されている。広場内の上下の移動にはエレベーターやエスカレーターを主要個所に配置するとともに、通常のサインに加え触知図、点字サインや音声誘導により安全に誘導するものとした。周辺施設への連絡通路、北陸鉄道浅野川線の金沢駅が設置されている。

#### c) 交流と賑わい創出の拠点整備

地上部と地下部の主要動線は滝と池を配した吹き抜け空間の階段とエスカレーターで結ばれ、地下部には大きな光庭を設け自然を取り入れ、照明も明るくすることにより、地上と地下が連続し一体的な広場空間となっている。特に、地下部には交流空間としてイベント広場を設置するとともに、50インチ12面のマルチビジョンやインターネット検索機能を備えた情報受信コーナーを設置している。

#### d) 環境に配慮した施設整備

乗降場シェルターに一体型の太陽光電池を設置し、地下広場の照明等に充てるとともに、大屋根の雨水を貯留し濾過した後、地下部トイレの洗浄水や地上植栽の散水に再利用している。また、緑豊かな空間整備として広場内には約2,600㎡の緑地を確保したほか、地下部にまで十分な太陽光が差し込むよう光庭や円形の地上への吹き抜け空間を設置している。

### 3. 交流と賑わいの拠点としての活用の取り組み

本年3月20日の完成式以降の期間に広場を活用して以下のような様々なイベントが行われた。

### (1) シンボリック空間としての活用

「もてなしドーム」と「鼓門」自体、金沢を象徴する個性的な空間であるが、この期間には、「もてなしドーム」に2つの巨大な現代アート作品が設置された。1つ目は「糸の造形」で地場産のポリエステルを使用し、金沢の象徴でもある浅野川と犀川、そして茶道・華道に代表されるおもてなしの心を表す花びらを配した空間デザイン。2つ目は「布による動く造形」で古来から気分を高揚させ、しかもサインとしての象徴の役割にも使われた吹き流しからのイメージによるデザイン、一方 加賀鳶の纏からの表現と加賀文化の伝統色である加賀五彩も加えて上下に動きのある布の柔らかい楽しい造形物が展示され、もてなしドームに華を咲かせた。



写真 - 1 地下広場の賑わい

### (2) 市民の交流空間としての活用

東広場の完成以降、完成記念イベントの一環として、主として土日祝日に、小中学校、幼稚園、住民組織（校下）、市民団体、まちなかパフォーマンスシアター、伝統芸能保存振興団体、オーケストラアンサンブル金沢等による演奏会や発表会などの多彩なイベントが行われた。

また、石川県内の輪島市、加賀市（片山津温泉）、七尾市、富山県内の近隣の南砺市、高岡市により伝統芸能のイベントが行われるなど、金沢市を越えた広域的な交流活動が行われた。

### (3) 賑わい創出の拠点空間としての活用

もてなしドームの完成に合わせ、駅東広場・駅通り線周辺の町内会、企業29社、団体の構成により「金沢駅前にぎわい協議会」が発足し金沢駅前を中心にした「にぎわいづくりの策定、提案、事業」への協力が図られている。

この協議会の協力を得ながら、東広場完成以来、地下の多目的広場を中心に、近隣ホテルのレストランによる飲食サービス、金沢百番街（駅高架下の商店街）をはじめとする近隣の商店や近江町市場による販売コーナー、ガラスの生花や九谷焼の展示、石川・富山の数都市からの観光・物産展等が行われ、賑わいの創出に大きな効果があった。

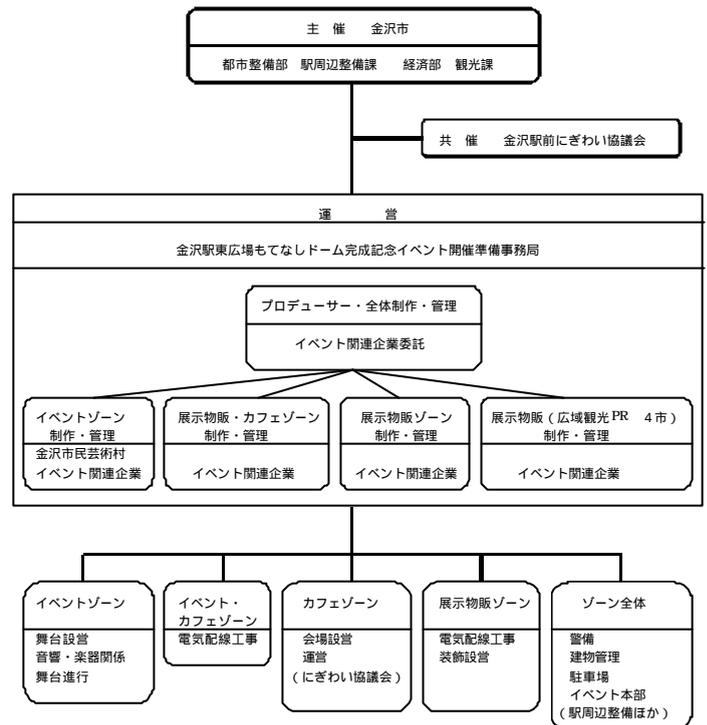


図 - 3 完成記念イベント組織図

## 4. 運営の体制づくり

東広場の完成記念イベント実施中は金沢市が主催し金沢駅前にぎわい協議会が共催する形で開催準備事務局を組織しイベントを実施していた（図 - 3）が、完成記念イベント終了後の経常的な交流・賑わい活動については、図 - 4 に示す体制で運営をしていく計画である。

広場管理者である金沢市は金沢駅前広場条例に基づき金沢まちづくり財団が運営するもてなしドーム企画運営センターに委託し、「もてなしドーム

もてなしドーム 賑わい創出への連携

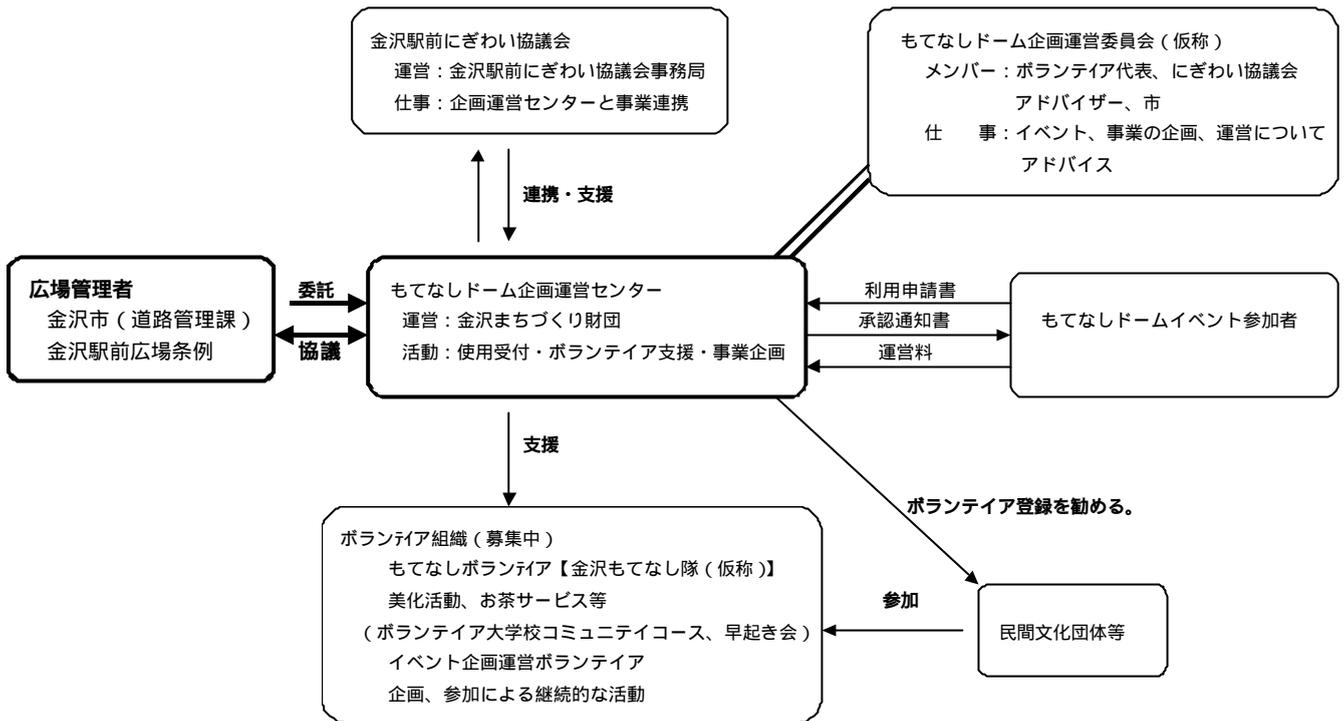


図 - 4 駅東広場の今後の運営体制

企画運営委員会（仮称）」のアドバイスを受けながら、金沢駅前にぎわい協議会と連携して一般からのイベント企画の参加を募り運営していく。実際の運営にあたっては、民間文化団体等と連携してボランティアを募り市民主体の運営としてゆくこととしている。

5. 今後の課題

a) 賑わい創出、交流空間としての公共施設管理

駅前広場は道路であり、利用にあたっては、公共施設である道路空間としての法令上の制限を受けることとなる。今後、どのような利用の要望があり、どのような利用については許容するのが、交流と賑わい創出の活動を展開する上で課題となると考えられる。

b) 賑わい創出と周辺店舗との関係

金沢駅東広場は金沢市のみならず、石川県、さらには北陸の玄関口の役割もあり、賑わい創出に関しては、広域的な各種のイベントが行われることとなる。そのようなイベントによる集客が周辺の店舗に

波及する側面もあれば、逆に客を奪われる側面も無いとはいえない。金沢駅前にぎわい協議会と連携して各種のイベントを実施してゆくなかで、このような現実をどうクリアしてゆくのが課題となる。

c) 交流と賑わいの創出のための空間デザイン

金沢駅東広場の活用の経験を踏まえ、交流と賑わい創出を促進するような空間のあり方が検討できると考えられ、今後、活用状況のモニタリングと分析が求められる。

参考文献

- 1) 金沢市都市整備部駅周辺整備課：金沢駅北土地区画整理事業 金沢駅東広場 あらたな伝統の創造をめざして，2005.
- 2) 出口善日出：金沢駅北土地区画整理事業 金沢駅東広場整備，区画整理，2004.10.
- 3) 河口多吉：金沢駅東広場の整備について，エスプラナード，2000.10.